

キャンピングカーユーザーではない人にも
おすすめの一冊

くるまの 防災 ハンドブック

完全
保存版

[無料]

令和6年
能登半島地震
復興支援の動き

緊急時の
車中泊避難に備える!

JRVA 監修





くるまの防災ハンドブック

キャンピングカーユーザーではない人にもおすすめの一冊

CONTENTS

- 4 熊本地震でのアンケートから読み解く
被災者が車中泊を行った場所と選んだ理由
- 6 車中泊避難の注意とストロングポイント
エコノミークラス症候群の原因と予防
- 7 **個別の空間が確保できる**
- 8 被災時、まずはとるべき行動を把握する
災害発生! その時どう動く?
- 9 緊急時に助けてくれる!
車載しておく物
- 10 “いざ”というとき役立つ
イエローページ
- 14 日本RV協会が実施した
「キャンピングカーと防災について」アンケート考察
- 15 行政と深く結びつくキャンピングカーメーカー
各地で包括協定が続々と集結
- 16 RVパークの普及と避難訓練の実施
日本RV協会の防災に関する取り組み
- 17 熊本地震では被災者をサポート
災害時における日本RV協会の動き
- 18 令和6年能登半島地震リアルドキュメント
緊急時にクルマは力強い味方になる!
- 19 **日本RV協会が行った支援の動き**



本誌は2022年、2023年に発行した「くるまの防災ハンドブック」を、2024年版として一部修正したものです



ここで紹介している「車中泊避難」は、緊急時にクルマで避難することを推奨するものではありません。被災後に避難所生活を送る際、いかにクルマを活用するかを紹介するものです。

編集/カーネル
表紙写真(メイン)/毎日新聞社/アフロ



能登半島に集合したキャンピングカー。日本RV協会が手配したキャンピングカーが被災地で復興支援に活用されている

はじめに

日本のすべてのクルマに 車載してほしい一冊

2024年1月1日。お正月ムードをかき消すように起こった「令和6年能登半島地震」。

復興にあたる自治体職員様の宿泊施設として、

キャンピングカーを能登半島へ運ぶなかで、被災地をこの目で見てきました。

熊本地震の際も話題になったように、現地では自宅に帰れず、

車中泊避難を行う被災者の姿を目にしました。

ペットと一緒に過ごしたい、プライバシーを重視したい、避難所が満員。

車中泊避難を行う理由は様々かと思えます。

そんな車中泊避難をすることになった方の支えになるような一冊にしたい。

今後、車中泊避難をすることになるかもしれない人に万全の準備をしてほしい。

そんな思いで製作した一冊。ぜひともご活用ください。

日本RV協会 災害対策部長 百田雅人

熊本地震被災者アンケート結果の抜粋

※一部、質問をわかりやすくするために変更しています

避難した場所はどこですか？

(回答者2297人・複数回答)

| | |
|------------------------|-------|
| 自動車の中 | 68.3% |
| 市町村が指定した避難所(指定避難所) | 26.8% |
| 親戚・知人宅 | 24.7% |
| 指定避難所以外の避難所(公共施設、民間施設) | 10.6% |
| 指定避難所かどうかわからないが、避難所 | 5.7% |
| 自動車を除く屋外 | 2.2% |
| 福祉避難所 | 0.6% |
| その他 | 9.5% |
| 未回答 | 0.4% |

最も長く避難した場所は「自動車の中」が68.3%で最も多く、「市町村が指定した避難所」が26.8%で続いている

どの場所で車中泊避難を行ったか？

(回答者1568人・複数回答)

| | |
|------------------|-------|
| 自宅の駐車場や周辺の道路 | 36.2% |
| 避難所の駐車場 | 26.0% |
| スーパーなど店舗や遊技場の駐車場 | 10.3% |
| 医療機関や福祉施設の駐車場 | 1.6% |
| 上記以外 | 7.8% |

※上記表内のみ、「%」は「避難した人の全回答者2297人」に対しての比率

全体を通して見ても「自宅の駐車場や周辺の道路」で車中泊避難を行った人は36.2%で最も多く、「避難所の駐車場」で車中泊避難を行った人は26.0%で2番目に多い

車中泊避難をした理由は何ですか？

(回答者1568人・複数回答)

| | |
|-------------------------------------|-------|
| 余震が続き、自動車が一番安全と思ったため | 79.1% |
| プライバシーの問題により、避難所より車中泊避難のほうが良いと思ったから | 35.1% |
| 小さい子どもや体が不自由な家族がいたから | 15.7% |
| ペットがいたから | 14.4% |
| 避難しようとした施設に避難者が殺到して避難できないと思ったから | 11.1% |
| 避難所が満員で入れなかったから | 10.3% |
| 他に近隣で避難できる場所がなかったから | 4.2% |
| 一度は避難所に避難したが、避難所に居づらくなったため | 2.9% |
| 一度は避難所に避難したが、避難した避難所が閉鎖されたから | 0.7% |
| その他 | 8.2% |
| 未回答 | 3.8% |

「余震が続き、自動車が一番安全と思ったため」が79.1%で最も多く、「プライバシーの問題により、避難所より車中泊避難のほうが良いと思ったから」が35.1%で続いている

なぜ、その駐車場に避難しましたか？

(回答者1568人・複数回答)

| | |
|--------------------------|-------|
| トイレや水道が使えたから | 44.2% |
| 自宅や職場、子どもの学校などが近いから | 41.7% |
| 周囲に避難者がいたから | 33.7% |
| 食事の提供などのサービスを受けることができたから | 15.6% |
| 被災者支援の情報が得やすいから | 8.2% |
| その他 | 15.3% |
| 未回答 | 6.7% |

「トイレや水道が使えたから」が44.2%で最も多く、「自宅や職場、子どもの学校などが近いから」が41.7%と僅差で続いている



熊本地震のアンケートを読み解く

被災者が車中泊避難を行った場所と選んだ理由

2016年に起こった熊本地震にて、車中泊避難が大きくクローズアップされたのを覚えている人も多いだろう。避難所の駐車場や路肩、自宅の庭など、クルマで寝泊まりする人たちがメディアを大きく賑わせた。なぜ、当時の被災者は車中泊を選んだのか？今回、熊本県が行った被災者アンケートの結果を踏まえて、その一部を抜粋。その内容を紹介することしよう。※細かな数値は左ページの表を参照。

まずは「避難した場所」。アンケートに答えた2297人(複数回答)のなかで、じつに68.3%の人が、「自動車の中」と答えている。これは、その他の項目の件数を大きく上回っており、熊本地震を象徴する結果といえる。さらに、「車中泊避難を行った場所」としては、「自宅の駐車場や周辺の道路」が36.2%と多い。全壊もしくは半壊した自宅では就寝できないが、その場所からあまり離れたくないという気持ちの表れのような。

では、「車中泊避難をした理由」は何だったのか？それは79.1%が答えている「余震が続き、クルマが一番安全と思ったため」。この項目は約8割が回答しているが、複数回答のため、この理由だけでは無いのがアンケートから読み取れる。「プライバシーの問題」、「小さな子どもや体の不自由な家族がいたから」、「ペットがいたから」、そして「避難所のキャパの問題」などが、車中泊避難の理由として考えられる。最後は車中泊避難を行った場所。「トイレや水道が使えたから」というように、ライフラインの確保が理由の第一位として挙げられた。

熊本地震被災者アンケート要項(熊本県が実施)

| | | | |
|-------|--|-------|--|
| 実施部署 | 熊本県知事公室 危機管理防災課 | 回答標本数 | インターネット調査/有効回収 2204件 郵送調査/有効回収 1177件(配布数2000件。回答率58.9%) |
| 調査目的 | 防災体制の強化に活かすため、県民の方々が日頃から災害にどのように備え、熊本地震の際にどのように行動したのか、行政に対して、どのようなニーズをお持ちなのかなど、その実態を調査する。 | 調査期間 | インターネット調査/平成28年8月3日(水)～9月15日(木) 郵送調査/平成28年8月31日(水)～9月23日(金) |
| 調査方法 | くまもと電子申請窓口「よろず申請本舗」を活用したインターネット調査と、郵送調査 | 出典 | 「平成28年熊本地震に関する県民アンケート調査 結果報告書」、熊本県知事公室 危機管理防災課、平成29年3月13日 |
| 調査対象者 | インターネット調査/熊本県民(限定なし) 郵送調査/揺れの大きい(震度6強以上を観測した)市町村居住者(熊本市/宇城市/宇土市/菊池市/合志市/大津町/南阿蘇村/西原村/嘉島町/益城町) | | |

ここが強み!

個別の空間で避難生活が送れる

ペット同伴の避難生活を送れる

避難所に入らず車中泊避難を選んだ人のなかには、「ペットと一緒に避難生活を送るため」という人も多い(P.4~5参照)。体育館や公民館などで共同生活を送らなければいけない場合、ペット不可の避難所であったり、避難所の中でも離れたスペースとなる場合も多い。

しかし、車中泊避難では個別の空間で、まわりを気にせず一緒に避難生活を送ることができる。ただし、クルマでの移動や生活に不慣れだと不調をきたすペットも少なくない。日ごろからペットも車内生活でのケージやリードに慣れさせておくことが大切だろう。



KEY POINT

日ごろから車内でのケージやリードのクセ付けを!

プライベート空間を確保できる

プライベート空間を確保できる車中泊避難は、特に女性や乳幼児がいる場合、大きな強みになる。窓を塞ぐ「目隠し」などを施せば、着替えや授乳、場合によっては緊急時の携帯トイレの使用などでも重宝するからだ。

さらに、ドアをロックできるのも大きなポイントだろう。女性ひとりや、母親と乳幼児だけで寝るときなど、セキュリティ面でも安心できる。車内での就寝人数に注意は必要だが、「独立した動く寝室」で寝られることがメンタルにも好影響を及ぼすはず。



KEY POINT

女性や乳幼児がいる場合はセキュリティ面でも安心

キャンピングカーなら電気も使える

避難生活に使用する車両がキャンピングカーなら、さらにアドバンテージになるのが「電気」だろう。サブバッテリーを積んでいるモデルも多く、走行充電やソーラーパネルで発電できるので、ライフラインとなる電源をクルマで補うことも可能だ。命綱となるスマホの充電も問題ない。キャンピングカーによっては、FFヒーターが装備されていたり、外部電源に接続せずに家庭用エアコンを使用できる。



緊急時にクルマを活用するためのチェックポイント

車中泊避難の注意とストロングポイント

ここが注意点!

エコノミークラス症候群の原因と予防

車中泊避難と聞いて、まず思い浮かべるネガティブな要素はエコノミークラス症候群だろう。長時間同じ体勢で過ごしたあと、歩き始めたときに急に呼吸困難やショックを起こす病気だ。車中泊避難だけでなく、避難所においても要注意。健康な人でもひと晩で発症することもあり、動脈硬化を有する老人や糖尿病患者などは特にケアが必要だ。

血栓ができやすくなる条件

| | |
|-----------|------------------------|
| 血液の流れが滞る | 車中泊や、雑魚寝などの避難所で体を動かさない |
| 血液が固まりやすい | 水分摂取不足による脱水傾向 |
| 血管が傷ついていた | 被災時に負った足のケガや打撲 |

発症する原因を知る

これがOK!



これがNG!



エコノミークラス症候群はなぜ発症するのか? 上記にもその原因の一部を書いたので繰り返しになるが、まずは姿勢の問題。同じ体勢で長時間過ごさないこと。膝を曲げたままイスに座り、足を下にして寝ないこと。なぜなら、血管(静脈)の中に血栓ができ、歩行などをきっかけに血栓が肺に流れて、血管を詰まらせてしまうからだ。

さらに、運動不足や水分不足なども原因のひとつといわれている。被災すると、車中泊避難に限らず、どうしても気持ちがふさぎがちになる。同じ場所で動かないのは心身ともによくない。意識的に運動することを心がけたい。

KEY POINT

エコノミークラス症候群は、同じ姿勢で長時間過ごしたり、水分不足や運動不足で起こる

こんな症状が出たら要注意

エコノミークラス症候群は、呼吸困難がおもな症状だ。急に立ち上がったときに呼吸が苦しくなる。そういった症状の場合は、すぐに医師に連絡を。自分自身もそうだが、周りの人にも気を配りたい。

血液の塊が小さい場合は、症状を感じない場合もあるという。初期段階では、下肢の赤み、腫れ・むくみ、だるさなどが挙げられる。一度できた血栓は、簡単には消えない。気になる病状が出たら、早めに医師に相談してほしい。

KEY POINT

脚のむくみから、呼吸困難まで段階あり

覚えておきたい3大予防法

1. 姿勢&ウェア

- ・長時間同じ姿勢でない
- ・水平就寝が基本。足を高くして寝る
- ・サポートソックスの着用

2. 水分補給

- ・水やスポーツ飲料の補給(アルコールはNG)
- ・簡易トイレの準備(水分補給をがまんしないように)

3. 運動

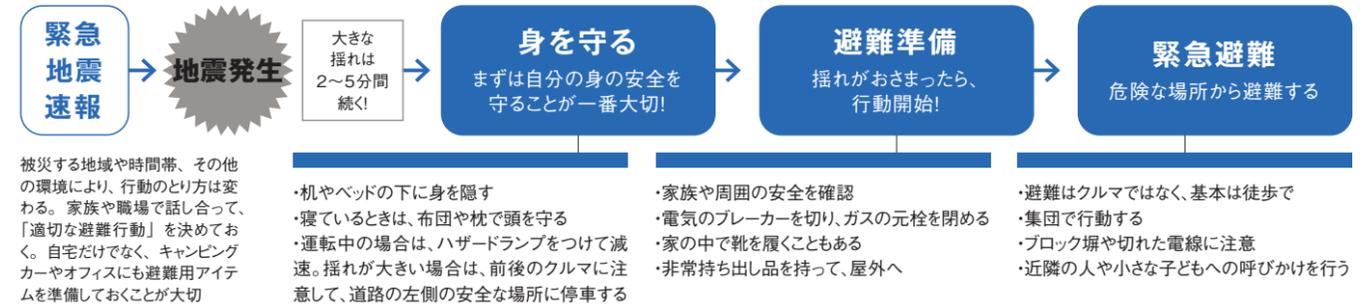
- ・数時間おきに歩く
- ・適度な体操や足まわりの運動
- ・ふくらはぎのマッサージ

被災時、まずはとるべき行動を把握する 災害発生! その時どう動く?

参考資料/レディオキューブFM三重『防災ハンドブック』

地震発生時の行動チャート

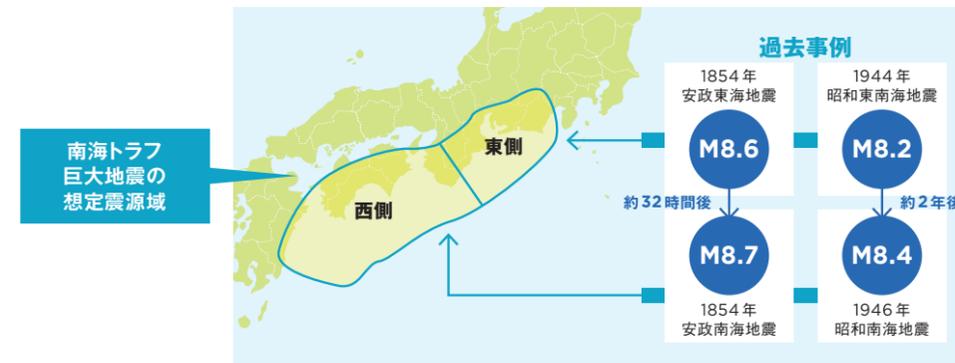
日ごろから重要なことは「被災時のシミュレーション」だ。地震発生から避難まで短時間ですべきことを紹介しよう。



津波に関して(垂直避難と率先避難)

津波注意報、津波警報、大津波警報など、予想される津波の高さによって分かれているが、重要なことは、「ここなら安全と思わず、より高い場所を目指して避難する(垂直避難)」こと。そして、「揺れたら避難」を徹底する。津波は一度で終わりではなく、繰り返し襲ってくる。警報が解除されるまで安全な場所から離れないようにする。

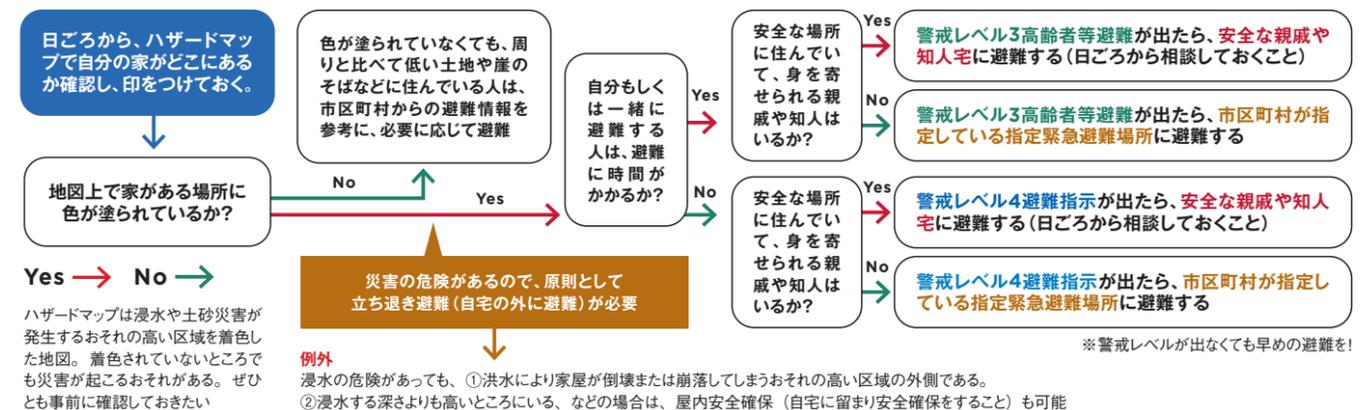
また、自ら率先して避難することを「率先避難」という。率先避難者がいれば、周囲にも必死さが伝わり、自分の命だけでなく周囲の命を助けることにつながる。ぜひとも率先して避難行動を起こしてほしい。



地震は一度では終わらないかも ~時間差で起きる場合も~

※Mはモーメントマグニチュード
※過去事例は東側が先に発生しているが、西側で先に大規模地震が発生するおそれもある

台風・豪雨時の避難行動判定フロー



緊急時に助けてくれる! 車載しておく物

圧縮袋

衣類やタオル、毛布類をクルマに積むのに、圧縮袋を使用してコンパクトに収納する。再利用することを考えて、掃除機などを使用してないタイプがおすすめ。ゴミ袋にもなる

マルチツール

ドライバーなどもあるので「補修」用として活躍する。ナイフや缶切り、栓抜きなどもあり「飲食」用としての用途もあり、幅広く使える。いまや100円均一ショップでも販売

銀マット

量販品でOKだが、厚さ5mm以上あるものが望ましい。就寝用マット、目隠し用シート、防寒用シートなどとして、使用例は多数。かさばらないのでクルマに1~2枚は積んでおきたい

毛布&タオル

夏はタオルを多めに、冬は毛布を多めに積んでおく。便利。睡眠時にも活躍するが、シートの段差を埋めたり、簡易カーテンとしても使える。ひとり1枚×家族の人数分が目安

アイマスク&耳栓

慣れない車中泊で眠れない人も少なくない。いつもは気にならない光や音が原因になることも。念のためアイマスクと耳栓があると対処できる。これは避難所でも同様

車載アイテムは定期的に入れ替える「ローリングストック」が大切

便利なアイテムを車内に積んでいても、定期的に入れ替えやチェックを行わないと、いざというときに使用できない……なんてことも多々ある。特に注意したいのは、食料品の消費期限切れ、ウエア類のサイズ変更、乾電池や絆創膏などの消耗品の補充忘れ、そしてゴムやプラ製品の経年劣化だろう。入れ替えや補充などの「メンテナンス」をお忘れなく。

KEY POINT

家族と季節の移り変わり、非常食や水の消費期限に気をつける

LEDライト

被災時は電気の供給が間に合わないことも想定しておきたい。そこでヘッドランプなどとも重要なアイテム。乾電池は入れたままにせず、予備電池も1セット準備して常に保管する

飲料水

水分補給はエノコミークラス症候群の防止にも役立つ。傷を洗い流すこともできる。普通の1本が1リットル。1日2ℓ×3日分×家族の人数分を、できれば500mlボトルで用意

非常食

救援が届くまでをしのぐ非常食。フリーズドライやアルファ米、缶詰、レトルト食品などの保存食を、3日×家族の人数分を準備。水や火を使わなくても食べられるものがあるおへた

マッチ

被災時にマッチがあると心強い。お湯を沸かしたり調理もできる。冬は廃材で焚き火をして体を温めることも。量販品で構わないが、使用可能か定期的にチェックしたい

ウエア類

夏は着替え用、冬は防寒具として家族の衣類も積んでおく。できればアウトドア用のウェアのほうが、吸水性・速乾性が高かったり、抗菌・防臭だったり、緊急時に向いた機能が多い

携帯用トイレ

非常時だけでなく平時のレジャーでも使えるので、車載しておいてもいい。車載しない場合は、家族の人数×3日分くらいあると安心だ。「大・小」それぞれ準備しておきたい

ウェットティッシュ

お尻をふいたりするのにも、汗ばむ夏体もふいたり、水が使えない場合に、食器をふくにも使える。感染症対策の除菌用としても、常時車内に準備しておきたい

トイレットペーパー

いくら携帯トイレ(大用)があっても、トイレットペーパーがないとつらい。さらに、除菌スプレーとセットで車内清掃に使用したり、血洗いの後、ふき取りなど、意外と汎用性は高い

車載アイテムは定期的に入れ替える「ローリングストック」が大切

便利なアイテムを車内に積んでいても、定期的に入れ替えやチェックを行わないと、いざというときに使用できない……なんてことも多々ある。特に注意したいのは、食料品の消費期限切れ、ウエア類のサイズ変更、乾電池や絆創膏などの消耗品の補充忘れ、そしてゴムやプラ製品の経年劣化だろう。入れ替えや補充などの「メンテナンス」をお忘れなく。

非常食や水は「車検」で入れ替え

車載アイテムのメンテナンスは、忘れないように「記念日」をつくること。例えば、「非常食は車検のタイミングで入れ替える」と決める。そうすれば非常食や水が何年も入ったままにはならない。

ウエア類は「衣替え」で入れ替え

ウエア類は「衣替え」を設定。3~4月は災害の報道も増える。そのニュースを見たら冬物から夏物へ。9月1日の防災の日は夏物から冬物へ、というように覚えやすい日にちを決めておく。子ども用ウエアのサイズアップはこのときに。

安否確認サービス

被災地の方の安否確認ができるサービスには、NTT が提供する「災害用伝言ダイヤル」「災害用伝言板 (web171)」と、携帯電話各社が用意する「災害用伝言板サービス」がある。スマートフォンの場合は、ドコモ「災害用キット」、au「au 災害対策アプリ」、ソフトバンク「災

害用伝言板」などをダウンロードしておくが簡単だ (ただし eSIM など非対応の場合あり)。

さらに、携帯電話会社の災害用伝言板情報、企業や団体が保有する安否情報も利用価値が高い。

災害用伝言ダイヤル「171」

電話で「171」にかける

伝言の録音

- ① 音声ガイダンスが流れるので録音は「1」
- ② 電話番号を入力。携帯電話の番号もOK
- ③ 「1」を入力した後、メッセージを録音する
- ④ 「9」を入力して終了

伝言の再生

- ① 音声ガイダンスが流れるので再生は「2」
- ② 相手 (被災地の方) の電話番号を入力。携帯電話の番号もOK
- ③ 「1」を入力すれば伝言が再生される
- ④ 繰り返し再生する場合は「8」、次の伝言を再生するときは「9」
- ⑤ 再生後に相手にメッセージを録音する場合は「3」



災害用伝言板 (web171)

<https://www.web171.jp>

特定の相手にメールや音声で通知

- ① web171にアクセス
- ② 「伝言板の登録・更新・削除」を選択
- ③ 「新規の伝言板の登録」を選択し、電話番号、メールアドレス、パスワードを入力
- ④ 伝言の通知先を登録

伝言の確認

- ① web171にアクセス
- ② 伝言を確認したい人の電話番号を入力 (携帯電話番号であれば、各携帯電話会社の災害用伝言板に伝言が登録されているかを確認できる)
- ③ 伝言登録画面で確認 (伝言が登録されていない場合はメールを入力すれば通知してくれる)

簡単伝言登録

- ① web171にアクセス
- ② 電話番号を入力
- ③ 伝言を登録

くるま旅クラブのWEBサイトでは
全国の車中泊専用駐車場が
検索できる!



<https://www.kurumatabi.com/index.php>

災害時に車中泊避難をする場合、被災地によってはライフラインが使用できる場合もある。RV パークなどの車中泊専用駐車場には、電源やトイレ、水道などが完備されている施設も多く、避難場所として活用できることも多い。

携帯電話会社各社の災害用伝言板



ドコモ

<http://dengon.docomo.ne.jp/top.cgi>



au

<https://dengon.ezweb.ne.jp>



ソフトバンク

<http://dengon.softbank.ne.jp>

“いざ”というときに役立つ イエローページ

2024
保存版

災害時は通話もデータ通信も集中して、なかなか欲しい情報を集められない。
あらかじめアプリをダウンロードしたり、地域の防災情報が集まったWEBサイトをブックマークしておくなど、“いざ”というときに備えておこう。

災害時に役立つアプリ

Yahoo!防災速報

<https://emg.yahoo.co.jp>

登録地域の防災情報をプッシュ通知。「防災手帳」の情報も優秀



WEB サイトで検索してもいいけれど、信頼できる情報の取捨選択が難しい。
事前にアプリをダウンロードしておけば検索の手間が省け、防災情報や避難場所などをプッシュ通知してくれるのも便利だ。

NHKニュース・防災

https://www3.nhk.or.jp/news/news_bousai_app

NHK の公式ニュース。放送中のニュースのライブ配信あり



防災情報「全国避難所ガイド」

<http://www.hinanjyo.jp>

被災時に近くの避難所を教えてくれる。安否登録、安否確認機能もある。マップのみオフライン対応



LINE

<https://line.me>

連絡網として有効。行政からインフォメーションが流れてくることもある



ココダヨ

<https://www.cocodayo.jp>

災害時に自分や家族の居場所を探知して表示、チャットで連絡を取れる。2カ月目以降、月額 180 円～



JAF

<https://jaf.or.jp/common/app>

雪道や大雨の冠水路でも、救援作業ができる安全な場所があれば出動可能。会員以外でも利用できる。自動車保険と提携している場合があるので事前に確認



radiko

<https://radiko.jp>

信頼できるラジオの情報をスマホから取得できる。緊急時以外でも楽しめるアプリ



EPARKおくすり手帳

<https://okusuritecho.epark.jp>

全国の薬局で使える「おくすり手帳」。災害時は処方せんなしでも持病の薬をもらえるので、登録しておこう



国土交通省「川の防災情報」

<https://www.river.go.jp/index>

全国の河川の水位や降雨の情報など、水災害に関するさまざまな情報を紹介している国土交通省のオフィシャルサイト。河川カメラの映像で平常時との違いを確認できるほか、「氾濫危険情報」や「3 時間以内に氾濫するおそれ」のある河川情報も確認可能。



通報

わかっているのに、慌てていると何番なのか
わからなくなってしまうのが緊急時の通報。落ち着いて連絡しよう

消防車、救急車 **119**

救急相談センター **#7119**

海上保安庁 **118**

各都道府県の防災WEBサイト&アプリ

政府、自治体の災害に関する問い合わせ窓口と情報収集に役立つWEBサイト&アプリを集めてみた。
自分が住んでいる地域だけでなく、旅先の窓口も確認しておこう。

佐賀県
政策部 危機管理防災課
☎ 0952-25-7362



防災・減災さが
<https://www.pref.saga.lg.jp/bousai/>

長崎県
危機管理部 防災企画課
☎ 095-824-3597



長崎県防災ポータル
<https://www.bousai.pref.nagasaki.jp/>

熊本県
知事公室危機管理防災課 災害対策班
☎ 096-383-1111



防災情報くまもと
<https://portal.bousai.pref.kumamoto.jp>

大分県
防災対策企画課
☎ 097-506-3139



おおい防災情報ポータル
<https://oita-bosai.secure.force.com/>

宮崎県
総務部危機管理局危機管理課
☎ 0985-26-7064



宮崎県防災・危機管理情報
https://www.pref.miyazaki.lg.jp/bosai/bosai_kikikanri_joho/index.html

鹿児島県
危機管理防災局災害対策課
☎ 099-286-2276



鹿児島県防災 Web
http://www.bousai.pref.kagoshima.jp/pub_web/portal-top/

沖縄県
知事公室防災危機管理課
☎ 098-866-2143



ハイサイ! 防災で~ひる
<https://bousai-okinawa.my.salesforce-sites.com/>

広島県
危機管理監危機管理課
☎ 082-228-2111



広島県防災 Web
<http://www.bousai.pref.hiroshima.jp>

山口県
総務部防災危機管理課
☎ 083-933-2360



防災やまぐち
<http://origin.bousai.pref.yamaguchi.lg.jp>

四国

徳島県
危機管理部危機管理政策課
☎ 088-621-2280



安心とくしま
<https://anshin.pref.tokushima.jp>

香川県
危機管理総局危機管理課
☎ 087-832-3187



かがわ防災 Web ポータル
<https://www.bousai-kagawa.jp>

愛媛県
県民環境部防災局防災危機管理課
☎ 089-912-2335



えひめの防災・危機管理
<https://www.pref.ehime.jp/bosai/>

高知県
危機管理部 危機管理・防災課
☎ 088-823-9320



こうち防災情報
<http://kouhou.bousai.pref.kochi.lg.jp>

九州・沖縄

福岡県
福岡県庁
☎ 092-651-1111



福岡県防災ホームページ
<https://www.bousai.pref.fukuoka.jp>

大阪府
大阪府庁
☎ 06-6941-0351



おおさか防災ネット
<http://www.osaka-bousai.net/>

兵庫県
危機管理部災害対策課防災情報班
☎ 078-362-9811



ひょうご防災ネット・ひょうご E ネット
https://web.pref.hyogo.lg.jp/kk40/pa20_000000001.html

奈良県
奈良県庁
☎ 0742-22-1101



奈良県防災ポータル
<https://www.bosai.pref.nara.jp/pc/topdis-nara.html>

和歌山県
防災企画課
☎ 073-441-2271



防災わかやま
https://www.bousai-wakayama.jp/dis_portal/

中国

鳥取県
危機管理部危機対策・情報課
☎ 0857-26-7950



鳥取県の危機管理
<https://www.pref.tottori.lg.jp/kikikanrihp/>

島根県
防災部防災危機管理課
☎ 0852-22-5885



しまね防災情報
<https://www.bousai-shimane.jp>

岡山県
危機管理課
☎ 086-226-7293



おかやま防災ポータル
<https://www.bousai.pref.okayama.jp>

日本の防災情報

政府が公表する防災情報。都道府県をまたぐ災害の情報を得られるので、自治体の情報とあわせてチェックしておきたい。

内閣官房国民保護ポータルサイト

<https://www.kokuminhogo.go.jp>
武力攻撃事態等における避難施設を探せる

内閣府防災情報のページ

<http://www.bousai.go.jp>
日本全国の災害情報、防災・減災に関する情報を掲載。被災者支援制度についても調べられる

国土交通省防災ポータル

<https://www.mlit.go.jp/river/bousai/olympic/>
ハザードマップ、ライフライン情報、道路災害速報や河川災害などが集約されている

気象庁

<https://www.jma.go.jp>
天気だけでなく地震や火山、海流や波浪などの情報を公開。「知識・解説」もためになる

栃木県
栃木県庁
☎ 028-623-2323



栃木県危機管理・防災ポータルサイト
<https://www.pref.tochigi.lg.jp/kurashi/bousai/>

群馬県
総務部危機管理課
☎ 027-226-2255



群馬県防災ポータルサイト
<https://gunma.secure.force.com>

埼玉県
埼玉県庁
☎ 048-824-2111



埼玉県防災ポータルサイト
<https://www.pref.saitama.lg.jp/theme/anzen>

千葉県
防災危機管理部防災対策課
☎ 043-223-2175



千葉県防災ポータルサイト
<https://www.bousai.pref.chiba.lg.jp/>

東京都
総務局総合防災部防災管理課
☎ 03-5388-2453



東京都防災ホームページ
<https://www.bousai.metro.tokyo.lg.jp>

神奈川県
神奈川県庁県民相談デスク
☎ 045-321-6865



神奈川県災害情報ポータル
<https://www.bousai.pref.kanagawa.jp>

中部

新潟県
防災局
☎ 025-282-1604



新潟県防災ポータル
<http://www.bousai.pref.niigata.jp>

富山県
危機管理局防災・危機管理課
☎ 076-444-9670



富山防災 WEB
<https://preftoyama.secure.force.com/bousai2>

石川県
危機管理監室
☎ 076-225-1482



石川県防災ポータル
<https://pref-ishikawa.secure.force.com>

北海道・東北

北海道
総務部危機対策局危機対策課災害対策係
☎ 011-231-4111



北海道防災ポータル
<https://www.bousai-hokkaido.jp>

青森県
危機管理局防災危機管理課
bosaikikikanri@pref.aomori.lg.jp



あおもり防災ポータル
<https://bousai.pref.aomori.lg.jp>

岩手県
復興防災部 防災課
☎ 019-629-5155



いわて防災情報ポータル
<https://iwate.secure.force.com>

秋田県
総務部総合防災課
☎ 018-860-4562



秋田県防災ポータルサイト
<https://www.bousai-akita.jp>

宮城県
復興・危機管理部 防災推進課
☎ 022-211-2375



宮城県防災情報ポータル
<https://miyagi-bousai.secure.force.com/>

山形県
防災くらし安心部 防災危機管理課
☎ 023-630-2230
☎ 023-630-2231



こちら防災やまがた!
<https://www.pref.yamagata.jp/020072/bosai/kochibou>

福島県
危機管理部危機管理課
☎ 024-521-8651



ふくしまぼうさいウェブ
<https://www.pref.fukushima.lg.jp/site/bousai/>

関東

茨城県
防災・危機管理部／防災・危機管理課
☎ 029-301-2885



茨城県防災・危機管理ポータルサイト
<https://www.bousai.ibaraki.jp>

行政と深く結びつくキャンピングカーメーカー 各地で包括協定が続々と締結

日本RV協会が実施した

「キャンピングカーと防災について」 アンケート考察



宮城県栗原市
日本RV協会



三重県松阪市
ダイレクトカーズ



大阪府門真市
カーショップアシスト



神奈川県藤沢市
神奈川トヨタ自動車



熊本県大津町
ホワイトトップ

災害時に活躍するキャンピングカーに、いま行政や地方自治体も強い関心をもっている。近年では、全国各地に拠点をもつキャンピングカーメーカーとその自治体が、包括協定

を結ぶことも多く、各メーカーは被災時にキャンピングカーを派遣して支援を行うことを明言している。2024年1月末現在、行政や地方自治体と日本RV協会の会員企業が、災害などで協力する包括協定を結んでいるのは、延べ23社にものぼる。ここでは、そ

の一部として2023年に締結した4社を紹介している。基本は災害時の車両の手配など、協力体制が主な内容といえるだろう。
神奈川トヨタ自動車は神奈川県藤沢市、ダイレクトカーズは三重県松阪市、ホワイトトップは熊本県大津町、そしてカーショップアシストは大阪府門真市というように、各社の地元（もしくはその近隣）の地方自治体と協定を締結しており、緊急時は迅速にサポートすることが可能だ。さらに日本RV協会も、初の事例

として宮城県栗原市と包括協定を結んでいる。この協定の大きな特徴としては、災害対策に連携して取り組んでいくだけでなく、観光に関しても協力して、宮城県栗原市を盛り上げていく内容が盛り込まれていることだろう。
2024年1月1日に起こった「令和6年能登半島地震」もあって、キャンピングカーに注目が集まっている現在、行政や地方自治体とキャンピングカー業界との取り組みが、増えていくことを期待したい。

一般ユーザーにアンケートを実施

②キャンピングカーがあれば災害時に確保できると感じるものは何か（複数回答）

| | |
|------------|-------|
| 空間（プライバシー） | 91.2% |
| 電源 | 79.6% |
| 移動手段 | 50.1% |
| 防犯（セキュリティ） | 36.0% |
| トイレ・風呂 | 35.3% |
| 水 | 27.2% |
| その他 | 3.8% |

①キャンピングカーは災害時に活躍すると思うか

| | |
|-----|-------|
| はい | 98.3% |
| いいえ | 1.7% |

④RVパークを災害時の避難場所として利用したいか

| | |
|-----|-------|
| はい | 80.5% |
| いいえ | 19.5% |

③災害時にキャンピングカーを貸し出すとしたら、どの程度まで許容できるか（複数回答）

| | |
|-------------------------------------|-------|
| スマホ充電などの電源設備を利用してもらう | 73.3% |
| 居住空間をくつろぎのスペースとして利用してもらう | 37.4% |
| 緊急医療や公共のベースステーションとして、行政等に車両を使用してもらう | 36.9% |
| 仮設住宅として、一般の方に車両を利用してもらう | 20.3% |
| バスルームやトイレなど、衛生設備を利用してもらう | 8.7% |
| その他 | 6.2% |

日本RV協会が編集・発行している年次報告書内に、「キャンピングカーの災害時の利用について」という項目で、一般ユーザーへのアンケートが実施された。とても興味深い内容となっているので、その一部を抜粋して紹介しよう。
おもな項目は以下の4点。
①キャンピングカーは災害時に活躍すると思うか
②キャンピングカーがあれば災害時に確保できると感じるものは何か
③災害時にキャンピングカーを貸し出すとしたら、どの程度まで許容できるか
④RVパークを災害時の避難場所として利用したいか
①の回答に「はい」と答えたのは、なんと98・3%。近年、日本列島全体が数多くの災害に悩まされていることもあってか、回答者の大半がキャンピングカーの災害活用を考えていることがわかる。
②の回答1位の「空間（プライバシー）」と2位の「電源」は、前回アンケートと変わらず。さらに「移動手段」が第3位に入っているのも興味深い。つまり、「空間」+「電源」+「移動手段」＝「キャンピングカーの強み」という方程式が、アンケートの回答からもユーザーと共有できていることがわかる。
そして③では、いくら緊急時でも自分の愛車を貸し出すことは難しいと思う人が多いなかで、電源設備の貸し出しを前向きに考えている人が7割以上。④のRVパークの災害拠点の質問に関しても、トイレや水まわりの設備利用も踏まえよううえで、電源設備の活用を考えて、答えた人が多かったと考えられる。



RVパークの普及と避難訓練の実施 日本RV協会の 防災に関する取り組み

各地の防災訓練やイベントにも参加



相模原市
総合防災訓練
城山地域会場訓練
(神奈川県相模原市)



子ども防災フェア
(神奈川県横浜市)



2023防災フェアなかの
(東京都中野区)

キャンピングカーの防災利用の声が高まるなか、日本のキャンピングカーメーカーを統括する日本RV協会も、より多くの地域や施設との連携を深めている。近年では、各地で開催された避難訓練や防災イベントに参加・協力し、キャンピングカーを展示することも増えている。

神奈川県相模原市の防災訓練では、実際に近隣住民が緊急時に避難所として使用する学校に集合。展示車両や体験などを通じて見聞を広めている。また、東京都中野区や神奈川県横浜市で開催された防災イベントにもキャンピングカーを展示。多くの来場者が興味深く乗り降りしている姿が印象的であった。

熊本地震では被災者をサポート 災害時における 日本RV協会の動き

2016年に発生した熊本地震において、「車中泊避難」が大きくニュースに取り上げられた。そんななか、日本RV協会は現地でボランティアを行い、被災者のストレスを少しでも軽減できるように支援を行った。具体的には、エコノミークラス症候群を発生しないために、一般車でもストレスを減らして寝られる就寝テクニックを、日本RV協会が提案し、注意点をイラストで配布。就寝用アイテムのDIYワークショップも実施。さらには、トレイラートの設置や日差しよけの配布なども行っている。

当時、被災者にはとても好評だったようで、現地に寄り添った支援といえるだろう。



数多くの車中泊避難者が集まったグランメッセ熊本では、クルマに装着する日差しよけを配布。段ボールで製作する簡易ベッドのワークショップも開催した。さらに、熊本県宇城市役所にトレイラートも設置している。イラストは被災地でRV協会が配ったもの。エコノミークラス症候群にならないための注意点をわかりやすく説明している

東日本大震災でも被災者を支援!



2011年に東北を襲った未曾有の大災害・東日本大震災。「災害支援プロジェクト」として、このときも日本RV協会は支援活動を行っている。協会加盟の各社に支援を呼びかけ、東北福祉大学の巡回医療チームにキャンピングカーやトレーラーを貸し出し、さらに宮城県石巻市長の要望に応じて、15台のキャンピングカーおよびトレーラーを石巻市に送っている。

災害時に避難生活の拠点になるRVパーク

被災時に避難生活の拠点となるように考えられたRVパークも登場している。そのひとつが「石狩FIELD」。

「旧小学校のグラウンドを、災害支援用機材を使用してRVパークとしてオープンしました。災害時の民設避難所としての機能を揃えています。RVパーク内での防災訓練や、アウトドアの知恵と技術と道具を使って、避難生活について学ぶ体験型研修キャンプも実施しています」とのこと。北海道石狩市との災害協定も締結しているという。

RVパークのなかには、「石狩FIELD」のように通常運営だけではなく、災害時の基地局としてのRVパークの在り方について考えている施設も増加中だ。



「アウトドアで災害時対応」体験型研修キャンプの様子

RVパーク 石狩FIELD

所在地：北海道石狩市横町39 旧石狩小学校グラウンド
電話：090-2201-9090 (9～17時)
Eメール：outdoor@e-ishikari.com <https://www.kurumatabi.com/park/rvpark/1099.html>



日本RV協会が行った 支援の動き



日本RV協会は、被災地の災害対策支援のために、会員企業のキャンピングカー数十台の貸与を決定。第一陣は石川県珠洲市（上）、第二陣は石川県輪島市（下）に配備された。被災地の復興の中心になる自治体職員と、全国各地からの応援職員の宿泊場所として活用される



地震発生後、被災地や行政からの要請を受けてキャンピングカーを派遣した日本RV協会。2024年1月11日には石川県珠洲市へ19台、18日には同県輪島市へ20台、合計39台のキャンピングカーが、日本RV協会によって、能登半島の被災地に届けられている。

これは、自治体職員の宿泊拠点を整備する「RVパーク村」の設立を目的としたもの。日本RV協会の会員企業のキャンピングカーを集め、被災地の復興の中心になる自治体職員と、全国各地からの応援職員（最大120名）の宿泊場所として活用されている。

今後は他の市町村にも拡大する可能性もあり、期間は1〜3カ月が予定されている。さらなる災害支援を行う日本RV協会の「RVパーク村」に、ぜひとも注目してほしい。



第一陣として珠洲市に届けられたキャンピングカーは、復興支援に協力している人たちが、すでに宿泊施設として活用している



被災地に集合した緊急支援のキャンピングカー

キャンピングカーはもちろん、バンコンやトレーラーまで、全国各地から集まった様々なキャンピングカーが被災地に到着。復興支援の拠点として「RVパーク村」の設立を目的としている

令和6年能登半島地震 リアルドキュメント



「令和6年能登半島地震」にて車中泊避難を行っている輪島市の被災者。雪積もる極寒の中、その厳しさが伝わってくる。写真/毎日新聞社/アフロ



緊急時にクルマは 力強い味方になる!

能登半島地震では、最大震度7の揺れと津波により、甚大な被害となった。石川県珠洲市へと向かう道中には、潰れた家や施設が数多く見受けられた。こんな時こそ、クルマは力強い味方になる

2024年1月1日16時10分。石川県能登半島・穴水町の北東42kmを震央とする大地震が発生。マグネチュード7.6、最大震度は石川県志賀町で観測された震度7。さらに、輪島港と七尾港には大津波警報も発令され、輪島港では観測地「1.2m以上」という観測結果が、気象庁から公式発表されている。しかし、珠洲市と輪島市にある津波観測計のデータが計測できておらず、実際にはさらに大きな津波が発生した可能性も考えられている。

2020年の能登群発地震などと区別するために、「令和6年能登半島」と呼ばれることとなった大震災。2024年1月23日現在で、石川県内の死者は233人、安否不明者19人、重軽傷者は1175人にのぼっている。さらに、ライフラインや導線となる幹線道路の復旧もままならず、1万5000人を超える被災者たちの避難生活は、いまだ先が見えていない状況だ。

そんななか、道の駅や学校の駐車場などで、車中泊避難を送る被災者も多く、各メディアでもその姿が紹介されている。自宅に帰れず、避難所に入らず（入れず）、2次避難もできない人たちが、クルマを活用した避難生活を送っている。まだまだ余震も続いており、降雪や寒波などの厳しい環境下。そんななかで、クルマが被災者の力強い味方になっていることはまちがいない。

車中泊は万能ではない。しかし、正しい知識と寝方を知れば、緊急時に助けてくれる。本誌の内容が、少しでも被災者の助けになれば幸いです。そして一刻も早く、被災地の復興への道筋が見えるように願っています。



各地のキャンピングカーショーで展示!



防災とキャンピングカーについて、 実際に見て、触れられる 「日本RV協会」ブースへ



日本RV協会は今年で30周年を迎えます。

キャンピングカーはレジャーを目的に購入される方が多くいらっしゃいますが、
じつは非常時にこそ、その力を発揮すると日本RV協会は考えます。

全国各地で開催されている日本RV協会(JRVA)のキャンピングカーショー。

そのなかで、30周年を迎えるJRVAの企画ブースにて、

災害時のキャンピングカーの有用性について、これまでよりも強化して紹介しております。

キャンピングカーショーを訪れた際には、ぜひともJRVAブースにお立ち寄りください!

